

6

指導計画

～「保育・教育課程」を活用して、園の指導計画を作成する～

<活用のポイント>

- ・「保育・教育課程」の該当する期を、そのまま活用する。
- ・子供に確実に経験させたい内容をバランスよく指導計画に取り入れるために、**8視点**を活用する。

「保育・教育課程」に基づいて、具体的な活動や教材を記述することにより、園独自の指導計画を作成します。



保育者

<活用の手順、方法など> 例：5歳児I期の指導計画

- 1 見開きの左ページに、5歳児I期（ハンドブックP.50）のねらいと内容を掲載する。右ページに、3要素・8視点に即して、具体的な活動例、教材例、子供の姿、保育者の援助を記入する表を作成する。
- 2 P.50に記載されているねらい及び内容を踏まえ、自園の実態に応じて、「1」で作成した表に具体的に記入する（次ページ参照）。
- 3 左ページに「行事」「小学校教育との連続性」などを自園の実態に応じて追加し、記入する。

5歳児 I期（4月～5月）	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい環境に自分からかかわり、いろいろな遊びに取り組む。 ・自分のやりたい遊びをしたり、友達や保育者とかかわりを楽しんだりしながらクラスのつながりを感じる。 ・年長児としての自覚をもち、生活の仕方が分かり、すすんで行く。
学びの芽生え	思考 <ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然現象に関心や親しみをもち、考える、試す、自然を取り入れて遊ぶなどとする。 ・戸外の自然に接し、その美しさや季節の変化に興味をもつ。 ・イメージに合う材料や用具を選び、場の構成の仕方を工夫して遊びを楽しむ。 ・砂や泥や水などの感触を楽しんだり、特性に気付いて試したりする。 ・様々な行事などを通して、国旗に親しむ。
	言葉 <ul style="list-style-type: none"> ・保育者や友達に対して、自分の思いや考えを自分なりの言葉で伝えようとする。 ・保育者や友達などに自分から挨拶をする。 ・身近な出来事について、感じたことや不思議に思ったことを言葉で表現する。 ・美しいものや心を動かされる出来事に出会い、感じたことやイメージしたことを表現することを楽しむ。
	創造 <ul style="list-style-type: none"> ・体で感じたリズムや自分たちで考えた動きを伸び伸びと表現する。 ・新しい素材や教材を使い、考えたことを自分なりに作ったり描いたりして表現することを楽しむ。
運動	運動 <ul style="list-style-type: none"> ・すすんで戸外に出て、友達と体を動かして遊ぶ心地よさやルールのある遊びの楽しさを感じる。 ・新しい遊具にかかわりながら使い方を理解し、安全に使おうとする。

<小学校教育との連続性>

- (教師・保育者間の連携)** ・今年度の保育所、幼稚園、小学校の交流活動の実施案を作成する。
- (子供の活動)** ・弁当をナプキンで包む。→固結びを経験する。
- ・近隣の公園や図書館に歩いて行く。→交通ルールや集団での行動の仕方を確認する。
 - ・健康診断を受ける。→自分が成長したことに気付く。大きくなったことを喜ぶ。

<行事>

- 4月
- ・始業式・入園式
 - ・離任式・新入園児歓迎会

- 5月
- ・健康診断・参観日
 - ・〇〇公園への遠足

	活動例	教材例	子供の姿	保育者の援助	
学びの芽生え	思考	<ul style="list-style-type: none"> ・草花を使った色水遊びをする。 ・虫探しをする。 ・砂遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すりばち、すりこぎ、計量スプーン ・砂場用のといや管 	<ul style="list-style-type: none"> ・水の量を調整したり、色が出る草花と出にくい草花があることに気付いたりする。 ・友達と色水を比べて違いに気付いたり、同じように作ってみようとしたりする。 ・いろいろな虫や草花に興味をもち、捕った虫をじっくり見たり、図鑑で調べたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見たり触れたりしながら身近な動植物に親しめるように、花壇の近くに机やベンチを置いたり、持ち出しやすいようにポケット図鑑を置いたりする。
	言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・離任式でお別れの言葉を言う。 ・健康診断の際に、自分の名前を言ったり挨拶をしたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ・離任した先生方に伝えたいことを自分なりに考えて話したり、友達の話を聞いたりする。 ・話したいことはあるが、恥ずかしさや緊張感から言葉が出にくい子供もいる。保育者が言葉を添えようと話そうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の気持ちが感じ取れるような場面を大切に、互いの思いを出し合えるように橋渡しをする。 ・周囲の子供の考えを引き出し、自分たちで伝え合えるように方向付ける。
	創造	<ul style="list-style-type: none"> ・巧技台や大型ブロック、段ボール等を使って構成遊びをする。 ・パネルシアターを使ったクイズをする。 ・誕生表に飾る自分の人形を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巧技台、大型ブロック、段ボール ・パネルシアター、不織布 ・空き箱やモールド、様々な紙類（折り紙や画用紙、包装紙など） 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい遊具を使って、友達と思いを出し合いながら、場を作って遊ぶ。 ・繰り返し遊ぶ中で、遊具の使い方に慣れ、自分たちの遊びのイメージに合わせて場を作ることを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい用具や遊具は、安全な使い方を知らせ、扱いながら興味を広げたり思いを実現したりできるようにする。 ・子供の考えを認めたり、遊びが深まるようなヒントをつぶやいたり、動きで表したりする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の世話、昼食時の準備などの当番の仕事をする。 ・おおまかな一日の生活の流れが分かって行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵カード、ホワイトボードを使った表示 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを自分でしようとする気持ちが見られ、身支度や当番の仕事などをすすんで行う。 ・ホワイトボードの表示を見ながら、自分なりに見通しをもって行動しようとする。 ・することは分かっているが、他のことに気を取られてしまい、行動を起こすことができない場合もあるが、保育者や友達から声を掛けられると行動を始める子供もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボードに「今日の子定」「持ち帰る物」等を示し、見通しをもてるようにする。 ・自分からすすんで行動している機会を捉えて認め、生活への意欲や、友達と一緒に「自分たちでできた」という満足感を大切にす。

<活用で期待される成果>

- 3要素・8視点から自園の指導計画を見直していくことにより、子供の発達をバランスよく捉えるとともに、確実に経験させたい内容を明確に位置付けることができる。
- 8視点から子供の育ちや保育者の援助を考え指導計画を作成することにより、園の実態に合わせて、子供に確実に経験させたい内容を具体化することができる。

7

保護者会

～就学前教育の内容及び子供の育ちを伝える～

<活用のポイント>

- ・ **3要素・8視点**の意味や内容を説明する資料を、ハンドブック P.11「**乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨**」を参照しながら、イラスト等を使って分かりやすく作成する。
- ・ 「保育・教育課程」に掲載している「**家庭との連携**」を参照する。

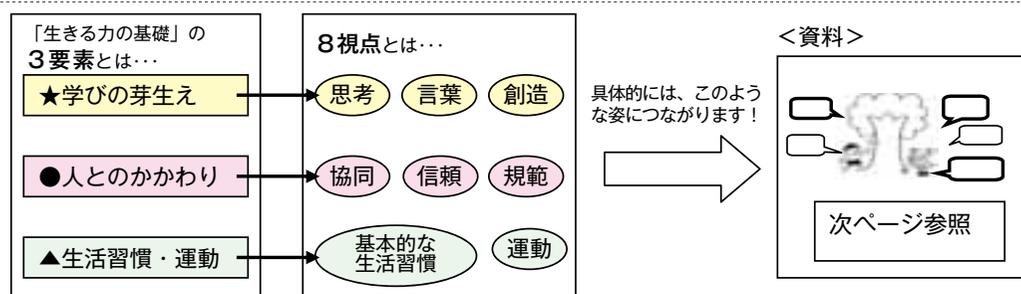
遊びや生活を通じた学びについて、保護者に継続して分かりやすく伝えることにより、理解を図ります。



保育者

<活用の手順、方法など>

- 1 年度初めの保護者会で、「生きる力の基礎」について、3要素・8視点の言葉及びマーク（★●▲）の意味を分かりやすく説明し、周知する。



- 2 日常の保育の写真（活用方法例8参照）を見やすいように投影（又は拡大）し、その写真を基に具体的な子供の姿を通して、経験している内容を、★学びの芽生え●人とのかかわり▲生活習慣・運動に分けて、説明する。
 - 3 各期に掲載されている「家庭との連携」を参考にし、子供の姿や、その時期に必要な援助の仕方を伝え、家庭での子育てに役立ててもらおう。
 - 4 次の期のねらいを分かりやすく説明し、保護者が今後の活動や、子供の経験の積み重ねについて見通しをもてるようにする。
 - 5 5歳児の保護者に対しては、小学校の公開授業への参加を促し、実際に小学校の様子を参観した上で、園での経験が小学校生活にどのように生かされていくのかを、「小学校入門期の日常生活における指導の接続」（ハンドブック P.72～）を参考にしながら、具体的に説明する。
- * 保護者への理解啓発参考資料：「就学前教育プログラム」（P.10～P.15、P.36～P.47）

<活用で期待される成果>

- 「生きる力の基礎」についてイラストや日常の写真等を用いて、園での活動とそこで子供が経験している内容を分かりやすく伝えることで、発達の連続性について理解を図ることができる。
- 年間を通じて継続的に伝えることで、園生活が意図的・計画的に展開されていることや小学校生活につながっていくことについて、保護者の理解が深まる。また、保護者の就学に向けての不安などを軽減させることにつながる。

「生きる力の基礎」の3要素

3要素とは、就学前教育で培う「生きる力の基礎」の要素、
《学びの芽生え》《人とのかかわり》《生活習慣・運動》です。

面白そう。
僕もやってみたい。

いくつあるのかな。
数えてみよう。

★学びの芽生え

思考
言葉
創造

友達や先生に自分の気持ちを
伝えられたよ。

元気に挨拶をすると気持ちが
いいね。

どうなっているのかな…。
調べてみよう。

★見たことや感じたことなどを、自分なりの方法で表現していこうとする表現力や想像力
★相手に分かるように伝えるために必要な言葉での表現の仕方
★いろいろなことに興味や関心をもって関わろうとすること など、学びの芽生えを育みます。

友達に優しくすると、自分も
うれしいね。

やって良いことかな。
いけないことかな。

ルールを守って遊ぶと楽しいね。

●人とのかかわり

協同
信頼
規範

友達と一緒にするって楽しい
ね。

頑張ったら最後までで
自分でできたよ。

●様々な人への信頼感、自分も人も大切にしていこうとする気持ち
●善悪について気付き、決まりやルールを守っていこうとする態度
●友達の良さを認め、一緒に遊びや活動を進めていく楽しさ など、人とのかかわりを育みます。

自分のことは自分でできるよ。

時計の長い針が5になっ
たら片付けて、集まるん
だ。

▲生活習慣・運動

基本的な生活習慣
運動

体をいっぱい動かして遊ぶの
は気持ちがいいし、楽しいね。

元気に大きくなるために、
好き嫌いをしないで何でも食
べよう。

▲基本的な生活習慣を身に付け、自分でできることは行っていこうとする姿
▲体を動かす楽しさを知り、すすんで運動しようとする意欲 など生活習慣・運動を育みます。

8

日常の保育内容を伝える

～遊びや生活を通した子供の経験を具体的に伝える～

<活用のポイント>

- ・年度初めに、保護者等に **3要素・8視点**の趣旨やマーク（★、●、▲）を周知しておく。
- ・ハンドブック P.11「**乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨**」の表を年間を通して掲示し、保護者の理解が深まるようにする。

子供が経験していることを、活動場面の写真と「生きる力の基礎」の3要素から伝えることにより、保護者への理解を図ります。



保育者

<活用の手順、方法など>

- 1 保護者に伝えたい内容に適した写真を選び、A4判の台紙に貼る。
- 2 「1」の写真それぞれに、子供が経験している内容や子供の言葉、保育者の願いを簡潔な言葉で記述し、★学びの芽生え、●人とのかかわり、▲生活習慣・運動のマーク及び8視点のうち該当するものを添えて掲示する。
- 3 掲示後は、台紙ごとクリアファイルにとじ、記録として活用する。

<例：こいのぼり作り（年長5歳児5月）>

こいのぼり作り

5月〇日（〇）

グループでこいのぼりを作り、小学校の校庭で泳がせました！



「ぬれても平気なこいのぼりを作ろう!!」

- ★友達と一緒に材料を工夫して、ぬれても平気なこいのぼりを作りました。（創造）
- 一人一人がアイディアを伝え合って、みんなで一つのこいのぼりを作りました。（協同）

「大きなこいのぼりが泳いだよ！」

- 年長ならではの大きなこいのぼり。完成後は得意気でうれしそうでした。（協同）
- ▲広い校庭で走り回って、大きなこいのぼりを泳がせました。みんなで順番！周りで追いかけるのも楽しいね！（規範）（運動）



★学びの芽生え ●人とのかかわり ▲生活習慣・運動

<活用で期待される成果>

- 活動の様子や子供の言葉を簡潔に示すことにより、3要素・8視点を、実際の子供の行動と結び付けて伝えやすくなる。
- 個人面談や保護者会において同じ視点で話をする事により、園での活動と一人一人の育ちとのつながりや、小学校教育への連続性を、より具体的に分かりやすく伝えることができる。

9

園内研究

～子供の発達の道筋を捉え、自園の保育を見直し、充実を図る～

<活用のポイント>

- ・ 8視点の中から、研究テーマに応じた視点に焦点化し、「保育・教育課程」の各期における関連する内容を活用する。

「保育・教育課程」の内容から園内研究のテーマに焦点化して取り上げることにより、基礎研究として活用します。



保育者

<活用の手順、方法など>

- 1 8視点の中から、研究テーマに関係の深いものに焦点を絞り、該当する期及び園の実態を踏まえた、援助のポイント、活動例などを記述する。
- 2 事例検討等を通して、自園での子供の実態を把握し、「1」の内容や現在行っている指導の検討及び共通理解を図り、指導計画などに加えていく。

<例：園内研究資料 テーマ「元気な子供を育てるための環境の工夫と教師の援助の在り方」>

視点「運動」	援助のポイント	活動例	経験していること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者や友達と一緒に、音楽に合わせて踊ったり体を動かしたりして遊ぶことを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子供の興味を捉え、なりきって体を動かせるような曲や身に付ける物を用意する。 ・ イメージをもちながら様々な動きができるように保育者も一緒に楽しむ。 ・ 一人一人の動きを認めたりスキンシップを図ったりしながら 	<p>ジャングル探検</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「ジャングルぐるぐる」を踊る。 ・ 音楽をかけながら園庭を探検する。 <p>忍者ごっこ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「しゅりけんにんじゃ」を踊る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 音楽に合わせて体を動かす楽しさを味わう。 ・ 行ったことがない場所にも出掛け、園庭に親しむ。 ・ 体の様々な部位を動かしたり、動物や忍者の表現を楽しんだりする。 ・ 遊びに必要な物を自分で作る（セロハンテープやのりなどの使い方）。 ・ 巧技台のビームやはしごを渡る、高い所から…
<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>4歳児 Ⅱ期（6月～9月） 視点「運動」に記載している内容を を活用する。</p> </div>			
<ul style="list-style-type: none"> ・ プール遊びを通して水の中の動きを楽しみ開放感を味わう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ プールに入る手順や約束などを絵で示し、一人一人が理解できるようにする。 ・ 水に対する経験の差を把握する。個別に関わりながら全体の子供の動きを常に把握し、安全に留意する。 ・ プールの中で普段の遊びを行うことで、安心感をもったり… 	<p>変身ごっこ</p> <p>「変身変身、何に変身」の掛け声に合わせて、うさぎ、ゴリラ、ワニなどいろいろな表現、動きを楽しむ。</p> <p>「はじまるよ」の手遊びをした後、プールの中で忍者やネコになりきって表現遊びを楽しむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分で服を脱ぎ、たたむ。 ・ 保育者や友達と一緒に音楽に合わせて体操をする楽しさを味わう。 ・ 水の気持ちよさを味わう。 ・ イメージをもってプールの中で遊ぶ楽しさを味わう。 ・ いろいろな体の動きをする。

<活用で期待される成果>

- 園内研究のテーマに応じて、8視点の中から様々な視点を活用することができる。
- 視点に即して発達の見通しをもつことができるため、その時期に育てたいことや援助のポイントが明確になる。このことにより、保育者間の共通理解及び保育の改善を図ることができる。
- 全ての期を同様に検討してまとめることで、園内研究のテーマに視点を当てた年間指導計画を作成することができる。

10

保育所・幼稚園等と小学校との連携（1）

～就学前教育における幼児の経験を具体的に伝える～

<活用のポイント>

- ・ハンドブック P.11「乳幼児期の子供の発達に応じて確実に経験させたい内容の視点の趣旨」を留意する。
- ・接続期に子供が経験している具体的な活動や内容について、「生きる力の基礎」の**3要素**からまとめた資料を作成する。

就学前教育で経験した内容を小学校に引き継ぐために、3要素を活用して説明します。



保育者

小学校教員

<活用の手順、方法など>

- 1 「保育・教育課程」5歳児Ⅳ、Ⅴ期及び「小学校入門期における指導の接続」を参考にして、園生活の様子が分かる資料を作成する。その際、接続期に焦点化して、具体的な内容をまとめる（次ページ参照）。
- 2 「1」の資料及びハンドブック P.11 の表を準備する。更に「保育・教育課程」5歳児Ⅳ、Ⅴ期及び「小学校入門期における指導の接続」の中から、必要な部分をコピーする。
- 3 小学校教員との連絡会において資料を基に説明し、協議を行う。

◆ 協議内容例

- 就学前教育の内容や方法の概要について
- 接続期の幼児の発達について
- 自園における5歳児の経験について など



接続期には、課題を受け止めて工夫して取り組んだり、友達と協力したりすることを多く経験できるようにしています。また、冬の自然に親しんで、感動したことを伝え合ったり、疑問に思ったことを試したりすることを大切にしています。

5歳児が片付けや掃除など、小学校での生活や学習に直接つながる経験をしていることが分かりました。入学当初から、その経験を生かしていく必要がありますね。

3要素を視点にしていることで、小学校入門期の教科等の指導や学級経営につなげて考えやすいと思います。



<活用で期待される成果>

- 3要素を視点にした資料の作成及び検討を通して、保育者が小学校教育との連続性を踏まえた保育の内容や方法についての理解を深め、それを基に、小学校教員に対して、就学前教育の内容を具体的に説明することができる。
- 3要素を共通の視点に、保育者と小学校教員が協議することで、5歳児の経験と小学校入門期の学習や生活とのつながりについて、具体的に相互理解を図ることができる。

就学連絡会 資料 (例)

年長5歳児は、12月から3月にこのような経験をしています。

学びの芽生え (思考・言葉・創造)

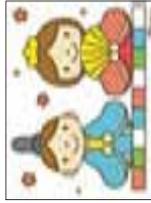
- ・水、霜柱など冬の自然に興味、関心をもち、触れたり試したりする。
- ・考えたり工夫したりしながら制作を楽しむ。(鬼のお面、ひな人形、遊びに必要なものなど)
- ・楽しかったこと、困ったことなどをみんなの前で発表する。(学級での集合同时、帰りの会での一日の振り返りなど)
- ・保育者が学級全体に話したことを、自分のこととして受け止め行動する。
- ・学級の皆で気持ちを含わせて、歌、踊り、劇、楽器の演奏をする。
- ・友達と共通の目的をもち、遊びの場や必要な物を作ったり描いたりする。

歌 「にじのむこうに」「世界中の子どもたちが」「カレンダーマーチ」など

制作 子供会で使うものの制作、カルタ作り、鬼のお面作り、ひな人形作りなど

自然のかかわり

- 水作り、球根植え、風を感じる (凧作り)、
- 春探し探検隊 (芽吹き、陽だまりの暖かさなど、「春」を探す。)



人のかかわり (協同・信頼・規範)

- ・共通の目的や課題に向かって、友達と力を合わせてやり遂げる喜びを味わう。(子供会、わくわくランド、修了制作など)
- ・友達の得意な面やよさに気付き、生かし合って遊ぼうとする。(投げごま、ごっこ遊びなど)
- ・小学校入学への期待をもつ。(授業体験、給食体験、学校ごっこなど)



生活習慣・運動 (基本的な生活習慣・運動)

- ・身の回りの整理や片付けの必要性が分かり、すすんで協力して行う。(積木の高さをそろえる、用具を分類して片付けるなど。)
- ・ほうきやちりとりに使って掃除をする。
- ・人数分の手紙の枚数を数えて、グループの友達に配る。
- ・必要感をもって手洗い、うがいをする。
- ・なわとびや固定遊具など、一人一人が目標をもって挑戦する。
- ・ルールを理解し、チームで対戦する遊びを楽しむ。

運動 ドッジボール、三つ巴鬼、ジャンケン鬼、縄跳び (前跳び、後ろ跳びなど)、うんてい、登り棒、鉄棒 (前回り、逆上がりなど)

12月

- ◆子供会 (劇遊び、歌、合奏の発表)
- ◇投げごま

1月

- ◆修了制作への取組
- ◇正月遊び (カルタ、すごろく、トランプなど)
- ◆鬼のお面作り
- ◆小学校訪問・給食体験

2月

- ◆わくわくランド (年少児を招いてのお店ごっこ、乗り物制作など：グループの友達との協同的な活動)
- ◆ひな人形作り (紙粘土、布など様々な素材を使った個人での制作)
- ◆飼育動物当番、誕生会の司会の仕方などの年少児への引き継ぎ

3月

- ◆作品の整理
- ◆修了式 (修了の喜びを感じる、静かに話を聞く、自信をもって話したり行動したりするなど。)

◆クラス全体の取組、課題として行う活動/◇自ら選んだ遊びの中でも行う活動

※活動の場面や作品の写真があると、より分かりやすい。

11

保育所・幼稚園等と小学校との連携（2）

～幼児と児童の交流活動の際に、相互理解を図る～

<活用のポイント>

- ・ 該当する学年の「保育・教育課程」のコピーを用意する。
- ・ 園生活の様子や幼児の姿を具体的にイメージできるような資料を用意する。（ハンドブック P.95 参照）

互いに有意義な交流活動するために、「保育・教育課程」を使って話し合います。



保育者

小学校教員

<活用の手順、方法など>

- 1 該当学年（又は該当する期）の「保育・教育課程」を示し、幼児の発達やねらい、内容などについて説明する。
- 2 作成した資料の具体的な活動場面の写真を示しながら、「1」で説明した内容と関連させて、実態を伝える。
 - ※ カリキュラムの該当する期の「指導例」を読み合うことで、幼児の発達を共通理解することもできる。
 - ※ 可能であれば、小学校の授業を参観し、互いの実態を理解する。
- 3 幼児の発達及び児童の学習状況を踏まえ、具体的な交流活動を選択する。
- 4 互いの指導（援助、支援）方法の意図を伝え合い、実際の活動場面でそれらを生かして展開する。
 - ・ 保育者は、当日の授業の単元やねらい、授業展開及び当日までに学習している内容（例：当日を迎えるまでの児童が取り組んだ内容や、ワークシートなど）を理解する。
 - ・ 小学校教員は、幼児の活動のねらいや展開を理解した上で、児童への支援を考える。
 - ・ 3要素それぞれに一つずつ、重点とする支援を明確にしておくことで、共通な指導を行いやすくする。
- 5 事後に評価・反省を行い、次回の交流に生かす。
 - ・ 「4」で共通にした重点から評価・反省を行うことで、共通理解及び次の交流の見通しにつなげる。

* 交流活動の参考資料：「就学前教育プログラム」（P.10～P.35）

<活用で期待される成果>

- ねらいや内容を幼児の遊びや生活の姿から具体的に伝え、幼児の実態や保育内容について共通理解を図ることができる。
- 保育者が児童の取組を理解することにより、就学前教育と小学校教育の内容及び連続性を踏まえた交流活動の計画を立てることができる。
- 幼児、児童それぞれに対する指導内容を保育者、小学校教員が確認しておくことにより、指導の方向性を共有し、互いに有意義な交流活動にすることができる。